

ひとと自然が響き合い未来へ奏でる人道のまち やおつ



やおつ

議会だより

No.171 2018.8



リトニアフェスタ「ネムナス」コンサート

～リトニア独立100周年記念事業～



れていない状況で、まだまだ周知の必要があると考えております。

町社会福祉協議会では、今後

利用の方やサポートの登録を増やしていく計画としています。

町といたしましても、今後さ

らに活動のPRのバックアップを行っていきたいと考えております。

広報紙やケーブルテレビなどのPRのほか、サロンや

各種相談会・訪問、またそこか

ら始まる□コミ、コミュニティ

を利用して多くの方にこの活動

を知っていたとき、「一つ目には、

お困りの方に知つてもらい、ぜひ利用していただけます。二つ目には自分がお手伝いできることの登録を呼びかけていく。この二

つを中心に、社会参加や生きがいづくりのきっかけとして、地域内での助け合い活動の機運を高め、地域みんなで支え合う社会を目指していきたいと考えております。

支え合いサービスの提供に関連して、高齢者には、不燃ごみの集積場所が少し遠い場所にあると思われるが、集積場所についての改善策はあるのか。

また、ごみ袋が低料金になり

約1年となるが、その状況報告と、介護支援事業として可燃ごみ袋の支給対象者は何名いるのか伺いたい。

町社会福祉協議会では、今後、利用の方やサポートの登録

を増やしていく計画としています。

町といたしましても、今後さ

らに活動のPRのバックアップを行っていきたいと考えております。

広報紙やケーブルテレビ

などのPRのほか、サロンや

各種相談会・訪問、またそこか

ら始まる□コミ、コミュニティ

を利用して多くの方にこの活動

を知っていたとき、「一つ目には、

お困りの方に知つてもらい、ぜひ利用していただけます。二つ目には自分がお手伝いできることの登録を呼びかけていく。この二

つを中心に、社会参加や生きがいづくりのきっかけとして、地域内での助け合い活動の機運を高め、地域みんなで支え合う社会を目指していきたいと考えております。

支え合いサービスの提供に関連して、高齢者には、不燃ごみの集積場所が少し遠い場所にあると思われるが、集積場所についての改善策はあるのか。

また、ごみ袋が低料金になり

約1年となるが、その状況報告と、介護支援事業として可燃ごみ袋の支給対象者は何名いるのか伺いたい。

（各務水道環境課長）

昨年7月に可燃ごみ袋の値下げを行いましたが、ごみ袋の販売枚数は、平成28年度が16万5570枚、平成29年度が16万1344枚でした。また、ご

みの処理量は、平成28年度が16万9560kg、平成29年度が112114万600kgと減少しております。

これは住民の皆様がごみの分別にご協力してくださっていますからだと思います。

次に、不燃ごみの集積場所につきましては、各自治会にご協力いただいて、回収を月1回、1箇所ほどでお願いしております。

議員が言われますように集積場所を増やすことは、不燃ごみには大きな物や重い物もあることから、集積場所の広さがある程度必要なこと、可燃ごみのように当日の朝に出してもらうことが難しいこともあるため、留置きできる所となると、町中で協力いただける場所を探すのはなかなか難しいと思われます。

また、町社会福祉協議会では、

民生児童委員の方々とともに、ひとり暮らし等の高齢者を訪問する事業を行っており、昨年度は151件のお宅を訪問されました。

こうした事業や機会を通じ、互いに情報共有を深め、「チヨコ

つと」についても高齢者の見回りの際に直接会話をの中ご紹介していただくなど、さらに連携を密にして取り組んでいきたいと考えております。

現在6つある「チヨコつと」と収集運搬手数料も増加するところから、町財政の厳しい中、集積場所を増やすことは難しいと考えますので、できるだけ現状のまま住民の皆様にご協力いた

だけれどと思つております。
最後に介護支援事業としての可燃ごみ袋（小）支給者の数は、平成28年度が43名、平成29年度が56名となっております。

（各務水道環境課長）

生活支援の必要性などについて、民生児童委員との連携強化を今後どのように推進していくのか伺いたい。

（藤本健康福祉課長）

皆様については、もちろんこうした活動につきましても毎月の定例会等において情報共有し、活動していただいております。

多くの研修会やワーケーションにも積極的に参加され、自らを高めていただくななど、その活動には頭が下がる思いでいます。

また、町社会福祉協議会では、

民生児童委員の方々とともに、ひとり暮らし等の高齢者を訪問する事業を行っており、昨年度は151件のお宅を訪問されました。

こうした事業や機会を通じ、互いに情報共有を深め、「チヨコ

つと」についても高齢者の見回りの際に直接会話をの中ご紹介していただくなど、さらに連携を密にして取り組んでいきたいと考えております。

（永田地域振興課長）

ふるさと納税制度について、町のアピールポイントや返礼品等について基本的な考え方を伺う。

ふるさと納税制度について、町のアピールポイントや返礼品等について基本的な考え方を伺う。

ふるさと納税制度による寄附金の実績とその主な使い道について

充当事業は、

町ホームページ、各種ポータルサイト内で紹介しております。

（永田地域振興課長）

八百津町は、平成20年度からふるさと納税制度の受付を開始し、平成26年度からインターネットのポータルサイトを利

ております。困つてみえる方、また、ぜひお手伝いしたいといふ方がありましたら、町社会福祉協議会へご一報いただければと思います。



町社会福祉協議会（福祉センター内）

用した寄附受付を始めました。当初より寄附者へ送る返礼品については、地場産のものを採用しており、全国への特産品PRにつながっています。平成29年度には、町内事業者と地域おこし協力隊、町とのコラボによる新製品の開発も行いました。

町としては、ふるさと納税制度をただの寄附金集めではなく、地場産業の発展と町の知名度アップにつなげていく取り組みを実施する体制と、地域の課題解決のためのツールであることが重要との認識で、寄附金の使い道を明確化し、移住促進や地域活性化につなげる寄附の仕組みづくりに取り組んでいます。

平成29年度の受付件数及び金額については、1万2999件、2億803万1101円となりました。

平成29年度の寄附金の使い道については、学童保育事業、防災リーダー養成講座の開催、小中学校の支援員配置、まちなかにぎわい創出事業、杉原ウイークリベント費用など、平成29度中に実施した多くの事業へ充当させていただきました。

充当事業は、



寄附金の活用方法について

寄附金の活用方法について、地域活性化に結びつける地域の活動事業など、寄附金の使い道をあらかじめ具体的に示した上で寄附を募る「クラウドファンディング型」のふるさと納税の考えはないのか。

また、寄附された方達との、今後継続的なつながりを持つことも重要だと思うが、町の考えを伺う。

答（永田地域振興課長）

寄附金の受付は、窓口や電話のみでなく、インターネットを利用して5つのポータルサイトでも受付を行っております。

本年度、そのポータルサイトの中でも八百津町への寄附金の84%を処理する運営会社との契約を、寄附金の使い道をPRする「ソリューションプラン」に変更しました。

この新たなプランは、全国で八百津町のみであるため、サイトの運営会社も力を入れている部分であり、今後八百津町の魅力をどのように全国に発信していくのかなど、サイトの運営会社とともに検討を重ねている段階です。そして、寄附金の使い道を明確化し、クラウドファンディングを実施するよう展開

してまいります。

次に、ふるさと納税を通じて八百津町を知っていたい寄せ者の皆様とは、継続的なつながりをもつことが重要と考えます。寄附者の方にはお礼状はもちろんのこと、前年度の寄附実績、使い道の報告をポータルサイトやメールマガジンを通じて報告しております。

新しい返礼品や寄附金が充当される予定の事業が実施された際にも、寄附者へのお知らせ、報告を実施しております。町内事業者の中には、お礼の品の発送の際に感謝を記した手紙を同封し、独自に継続的なつながりを持とうと努力している方もおみえです。

町にとつてはファンを獲得し、交流人口の増加、知名度のアップを図るチャンスであり、事業者にとっては新たな販路拡大につなげる絶好の機会となっています。今年は、八百津町のイベント、杉原ウイークや産業文化祭などのチラシ等を送付し、八百津町へ来ていただけるようしていきたいと思います。

また、検討段階ではあります

が、同窓会開催に際して、その案内文書の郵送にかかる費用を町が補助する事業の設立を検討しております。

八百津町で生まれ育ち、現在は町外へお住みの方が多くいらっしゃいます。そのような方々

にもう一度八百津町を思い出しています。ただくことを目的として、事業を実施できればと考えております。

協働のまちづくり事業への活用について

ふるさと納税の資金を協働のまちづくり事業に活用していく中で、地域にあつたきめ細かい使い道を考えていくべきだと思うが、考え方を伺いたい。

答（永田地域振興課長）

協働のまちづくり事業につきましては、平成29年度はハード事業2件、ソフト事業5件を実施しました。平成30年度は、ソフト事業を4件実施する予定であります。

クラウドファンディングを利用してのまちづくりをということがとからいますが、住民に発想していただき、その後にクラウドファンディングを行うという形になると思いますが、今後検討していきたいと思います。

Q1 新丸山ダムについて

山田 勉議員

協議会の立ち上げについて

新丸山ダム完成後の八百津町の将来計画について検

討する協議会等を立ち上げ、具体化を進めたらどうか。

協議会については、昨年8月、「新丸山ダム水源地域協議会」が設立されました。この協議会の構成メンバーは、新丸山ダム工事事務所、丸山ダム管理所、ダム周辺市町（八百津町、御嵩町、恵那市、瑞浪市）、関西電力株式会社で構成されています。

ダム本体やダム湖並びにダム周辺地域の有効な利活用の方法や

周辺地域の観光、ダム上下流域の交流など、町の活性化に結びつく効果的な施策を検討するものです。

具体的には、町内の飲食店と協力し、ダムカレーを開発・販売したり、町内の飲食店を回るスタンプラリーを開催し、その景品としてダム転流工の発破石を配布しました。発破石は「初志貫徹」などの意味があり、縁起が良いと大変好評で、予定期量がすぐになくなつたと聞いています。ダムカレーは、現在も販売を継続しております。

また、旅行会社と協力し、ダムツアーハーを開催しました。このダムツアーハーは、丸山ダムの見学だけでなく、杉原千畝記念館の見学や潮見山の直売所、八百津

としたダムシンポジウムを開催したところ、申し込みがすぐに埋まるほど好評でした。このように観光や地域振興につながる施策をいろいろと計画し、実現化しております。

今後、新丸山ダム本体の工事が始まります。また、新丸山ダムが完成した後においても八百津町の活性化や地域振興につながるような施策を検討してまいりたいと考えております。

答（藤掛建設課長）

8月、「新丸山ダム水源地域協議会」が設立されました。この協議会の構成メンバーは、新丸山ダム工事事務所、丸山ダム管理所、ダム周辺市町（八百津町、御嵩町、恵那市、瑞浪市）、関西電力株式会社で構成されています。

ダム本体やダム湖並びにダム周辺地域の有効な利活用の方法や周辺地域の観光、ダム上下流域の交流など、町の活性化に結びつく効果的な施策を検討するものです。

具体的には、町内の飲食店と協力し、ダムカレーを開発・販

売したり、町内の飲食店を回るスタンプラリーを開催し、その景品としてダム転流工の発破石を配布しました。発破石は「初志貫徹」などの意味があり、縁起が良いと大変好評で、予定期量がすぐになくなつたと聞いています。ダムカレーは、現在も販売を継続しております。



町単独の協議会の立ち上げについて

八百津町と周辺市町で協議会を設立しているとのことだが、本町独自で協議会を立ち上げるべきだと思うが、考えを伺う。

答（藤掛建設課長）

八百津町だけで協議会を立ち上げたらどうかとのご質問ですが、例えばダムツアーハーを計

画するにも、ダムや発電所の見学をコースに入れるとなると、新丸山ダム工事事務所や丸山ダム管理所、関西電力(株)の協力が必要となります。



人道の丘公園

こういったことを総合的に考えますと、本町だけで協議会を作るのはなく、もつと広域的に広い見地に立つて協議会を運営するのが良いと考えております。

ただ、細かい部分での地元との調整となると、町での協議会の立ち上げが必要になるのかもしれませんので、今後検討してまいります。

ダム周辺の市町の観光地もコースに入れることで変化に富んだツアーバーになると思います。そして、ダムの上流地域と下流地域の交流事業も町の活性化につながると考えております。

駐車場の整備について

問 丸山ダム周辺には3つの公園があり、将来、新丸山ダム完成後の観光客の増加を考えると、駐車場の不足と道路の狭い所があるので、その整備が必要ではないかと思うが、町の考え方を伺う。

答（藤掛建設課長）最初に3つの

聞いておりません。この路線は、大変急峻な山腹を通つております。全線を拡幅改良するには膨大な工事費がかかり、費用効果を考えても非常に難しいと考えております。ただ、部分的に待避所を設置することは可能です。

今後、新丸山ダムの完成に伴い、観光客の動向を見ながら、必要であれば駐車場の増設や待避所の設置を検討してまいりました。



フレンドリーパーク大平

ハレク大平についてでは、公園内の駐車場に乗用車36台と、川の対岸の駐車場に70台停めることができます。夏の観光客が多いときや漁業協同組合が行う行事の時も駐車場が足りないという声は聞いておりません。

環境料などの補助金を活用した森林整備を進めており、補助金投入後の多用途への変更は制限があり、山林の所在地も奥地が多く、進入道路、開発コスト等を考えますと適地はないと考えます。

答 (秋松農林課長) 平成29年度末の町有林は約139.6haで、そのうち約60%が保安林となっています。この保安林分につきましては、解除が難しく、①指定理由の消滅、②公益上の理由の場合に限定されており、民間の保養所等の建設に関しましては、町有林の保安林分では無理なため、普通山林としての約504haが検討

在参加しております、木曽三川流域の水環境を守るため流域市町村が一体となって取り組んでいる木曽三川流域自治体連携會議等の活用により、下流域と上流域水源域の水源林環境整備の連携など、町有林及び自然を活用した町活性化につながるような活用方法について、各種規制の

Q2 町有林の開放について

町有林の利用について



フレンドリーパーク大平

次に、道路が狭いところがあるとのことです。ですが、人道の丘公園とフレンドリーパーク大平へつながる道路は、十分な幅員があります。また、めい想の森公園へつながる道路は、幅員が4m程度で、狭いところは3.5mしかなく、自動車のすれ違いができないということは認識しております。しかし、現在までに交通事故があつたという報告は

丸山ダム周辺には3つの公園があり、環境も素晴らしいので、町活性化のために町有林を開放して、会社等の保養所を誘致したらどうか。

Q1 第5次総合計画について

加藤良治議員



めい想の森

卷之二

問 八百津町のすべての分野の行政運営の基本となるものであり、策定後、それぞれの分野の実施計画に基づいて実行されており、町民の参画と行政との協働の下、安心と生きがい

やおつ議会だより No.171 2018.8

を感じできるまちづくりに取り組むとされている。

そこで、特に地域福祉の充実について伺う。2000年の介護保険スタートの翌年2001年に示された『生活支援事業あるいは制度外とされ、総合事業でも市町村の判断とされているが、この分野の町の方針について伺う。

答 **(藤本健康福祉課長)**

本年4月1日現在の本町の高齢化率、つまり65歳以上が人口に占める割合は、町全体で37・54%、八百津地区についても40%を超え、久田見・福地・潮南地区においては、2人のうち1人が65歳以上という状況になっています。

これから高齢化社会を乗り切っていくためには、高齢者や地域が抱える課題について、新たな支え合いの仕組みが必要となつております。

地域が抱える課題について、新たな支え合いの仕組みが必要となつてきました。第5次総合計画では「地域リーダーの育成、さらには地域福祉の担い手の育成や町民ネットワーク化に取り込むことで、町民が主体の福祉づくりを進めます」と定めておりま

りの推進や生活支援ボランティアを養成していきます」と掲げております。

介護保険のスタートに合わせて2001年に国が示した「介護予防・地域支え合い事業の実施について」に基づき、当町として取り組みができる介護予防に資する幾つの生活支援事業を実施してまいりました。

例といたしまして、①介護認定まで至っていない高齢者につ

いて、要介護状態への進行を防ぐためにホームヘルパーを派遣する軽度生活援助事業、②家に閉じこもりがちなひとり暮らし高齢者に対し、デイサービスへの通所によって身体訓練や趣味活動などのサービスを提供する生きがい活動支援通所事業、③高齢者を介護している家族を介護から一時的に解放し、日帰り旅行などで介護者相互の交流を図り、リフレッシュしていくだけなく家族介護者交流事業、その他筋力向上トレーニングや介護用品の支給事業などもあります。

また、2011年に町の委託によってNPOやおつが開催した「生活介護支援サポート入門講座」の受講生の皆さんから始まつた「ほっとカフェ」、こうした通いの場づくりの活動は、今ではいろいろな形で各地域に広がっております。

介護保険法の改正によって新設された介護予防・日常生活支

援総合事業につきましては、昨年の一般質問でも答弁いたしましたが、今までの介護保険事業による給付型のサービスから脱却し、市町村の責任の下、その町に住む住民同士の助け合いによって、これまで事業者が行つてきたサービスの一部を住民主体の取り組みで代行しようと

いうもので、今までの考え方をさらに一步進めたものとなつております。元気な高齢者は、自分でのできることや得意な分野で社会参加していただくことで、さらに元気になつてもらい、生きがいを持つて生活していくたゞく、そんな相乗効果も期待されます。

総合事業では、事業の中に新しい「協議体」と「生活支援コーディネーター」を配置するなどの生活支援体制整備事業が新設されました。

当町では、協議体と生活支援コーディネーターを2層構造とし、第1層は八百津町全域を見渡すもの、第2層につきましては小学校区、つまり6地区での設置が望ましいと考えております。

八百津町全域、第1層の生活支援コーディネーターにつきましても、既にさまざまなかながりで地域に貢献されたり、ボランティアとして活躍されている多くの方々やグループがあります。ただ、今の状態ではそれぞれが個々に活動されている状態で、仕組みの中で動いてみえるわけではありません。例えば、ごみ出しを頼んだが、その日は頼んだ方の都合が悪く断られたり、買い物の付き添いをお願いしたいが、どこへ頼んだら良いのかわからないということも起ってきますので、どんなサービスがあるのか相談できる場所も今後必要となつてきます。

づくりなどについて議論していくべきだと思います。

この第1層の協議体、生活支援コーディネーターの議論の中から、第2層の実働部隊となる支援体制づくりを進めて行きました

いと考えています。



ボランティア活動について

問 ボランティア活動に対する認識と、立ち上げ支援・育成していくことに関する執行部の考え方を伺う。



地域支え合い体制づくりについて

問 地域福祉の充実や町民の安心・安全なまちづくりを実現するため、地域支え合い体制づくりに向けた具体的な今後の取り組みについて、町執行部の考え方を伺う。

答 **(藤本健康福祉課長)**

交通安全協会等のよう組織づくりができるかといふ質問ですが、この事業は住民の皆さん自身で決めていくのが、総合事業の原則となつております。

第2層の地域組織は、ボランティアの活動をきちんとまとめた組織の中で、地域をつなぐ場であつてほしいと考えております。いわば、点が線ではなく面になるというイメージです。

実際に実働部隊となる第2層の仕掛け人、コーディネーターの発掘・育成、地域組織の設置につきましては、社会福祉協議会を中心として、住民の皆様とともにできるだけ一緒になり、早い立ち上げを目指し、そのための育成・支援に努めていきました

いと考えております。

この第1層の協議体につきましても、既に社会福祉協議会へ委託し、事業を進めております。また、第1層の協議体につきましては、まずは本年度中の組織化を目指し、支え合いの基準

既に各地域には数多くの組織や役職があり過ぎ、どちらかと
いうと今はそれらを少しでも簡素化できないかという方向にあ
ります。これがさらに町の依頼に基づく組織ということになる
と、ますます役職を増やすなどではなくてはならないという印象となつ
てしまい、本来の目的である交流・助け合い、そして自立した
活動ではなくなつてしまふ可能性があり、これも問題であると
考えております。

「百津町地域福祉計画」の策定年
となつておりますので計画策定年
に向け、来月7月には各地域に
おいて懇談会を予定しております。
この懇談会は、計画の策定
についてだけではなく、地域課
題や助け合いとして何が出来る
かなど、地域での支え合いづく
りについて皆さんと考える場、
きつかけづくりの場となればと
も考えております。

Q2 和知地区体育施設再整備・構想計画について

今後の進め方について

町としても決して待ちな姿勢でいるわけではなく、「おでかけ健康講座」や「高齢者安心相談会」など、各地域へ出向いておりまます。また、社会福祉協議会でも、民生児童委員とともにひとり暮らしの高齢者等の家へ訪問したり、「支え合いサポートセンター養成講座」や「チヨコつと」の取り組みなど、ボランティアの育成も行っているところです。

地域課題の共有、地域づくりに参加するきっかけづくりや仕掛け、アイデア、そしてそこから育成・支援は町の重要な役割として取り組んでいきたいと考へております。また、地域差もあるため、地域組織の設置につきましては、実施可能な地域、例えばモデル地区からという方法も考えられます。

答 （吉田総務課長）

(吉田総務課長)

本構想計画は、「八百津町総合計画」、「八百津町まち・ひと・しごと創生総合戦略」、
「公共施設等総合管理計画」を受け、再整備について基本の方針等を策定しています。特に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」には、重要施策の一つとして「特色あるスポーツ施設を活用した

観光・交流の促進施策」が掲げられております。この計画実現のため、「八百津町スポーツ・文化交流促進事業構想計画」、「和知地区体育施設再整備構想計画」を昨年度策定しました。これら2つの構想計画をもとに、今年度、基本計画を策定すべく取り組んでいるところです。

特に、和知地区体育施設再整備構想計画の中心となる和知体育馆は、築47年を経過し、耐震面でも脆弱な建造物であり、公共交通施設等総合管理計画でもその改修についての方針を打ち出しておらず、同一敷地内にある和知センターも含めて、地域の一つの拠点として機能させるべく再整備をしていくことをするものです。

また、単なる体育馆の整備にとどまらず、地域のセンター機能をあわせ持つた一つの生涯学習センターとしての役割を担うほか、「八百津町スポーツ・文化交流促進事業構想計画」における基幹集客拠点としての機能をも有するものにしたいと考えています。

また、防災機能については、現在の和知体育馆、和知センター及び和知グラウンドは、地域の指定緊急避難場所、一時避難場所及び指定避難所として指定をさせていただいており、今回の再整備構想計画の中でも同様の機能を有し、災害対策拠点と

しての機能も有するものにしたいと考えています。

お尋ねの基本設計、詳細設計、着工までのスケジュールについては今年度に基本計画までまとめて、今後、国の補助制度とも照らし合わせ、有利な補助金、交付金の対象事業となるよう調整しながら事業を進めてまいりたいと考えております。

現在、公民館や社会体育施設これら単体での改築等の事業に対する補助金は、行われておりますので、単独事業で公民館等生涯学習施設や体育館を再整備することは、町にとつても財政的に困難と言わざるを得ず、今後、地域再生法に基づく地域創生関連の事業、社会資本整備総合事業等、各省庁の国庫補助事業のメニューを調査・研究しそれらに適合するよう基本計画実施計画を調整し進めてまいりたいと考えます。従いまして、現在のところ、明確な期日についての回答は避けさせていただきたく思います。

また、地域の体育協会等住民組織の参画については、当然、実施計画の時点では、ご利用いたぐ地域の皆様のご意見も伺いながら事業を進めてまいりたいと考えております。

Q2 移住者など異文化交流共生及び日常生活上のトラブル等への対処について

啓発活動支援等への対応について

議会でも、民生児童委員とともにひとり暮らしの高齢者等の家へ訪問したり、「支え合いサポート」や「チヨコつと」の取り組みなど、ボランティアの育成も行っているところです。

地域課題の共有、地域づくりに参加するきっかけづくりや仕掛け、アイデア、そしてそこから育成・支援は町の重要な役割として取り組んでいきたいと

答（吉田総務課長） 本構想計画は、「八百津町総合計画」、「八百津町まち・ひと・しごと創生総合戦略」、

れでおり、大変すばらしい構想であるが、防災の観点も含まれているとなお良いのではないかと思う。構想から基本計画、詳細設計、今後の工程スケジュール等や地域の体育協会等住民組織の参画など、今後の進め方について伺う。

また、単なる体育館の整備にとどまらず、地域のセンター機能をあわせ持った一つの生涯學習センターとしての役割を担うほか、「八百津町スポーツ・文化交流促進事業構想計画」における基幹集客拠点としての機能をも有するものにしたいと考えています。

事業のメニューを調査・研究し、それらに適合するよう基本計画、実施計画を調整し進めてまいりたいと考えています。従いまして、現在のところ、明確な期日についての回答は避けさせていただきます。

また、地域の体育協会等住民組織の参画については、当然、実施計画の時点では、ご利用いただく地域の皆様のご意見も伺いながら事業を進めてまいります。

多文化共生とは、総務省の名文化共生の推進に関する研究会の報告では、「国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的な



和知体育馆

いを認め合い、対等な関係を築くこととしながら地域社会の構成員として共に生きていくこと」

とされております。

近年、外国人移住者増加に伴い、従来からお住まいの方も外国人から移住された方も互いの文化的違いを認め、理解しあい、ともに生きていくということが重要になってきていることは言うまでもありません。

八百津町の現状は、平成28年度27世帯75人、平成29年度34世帯85人、平成30年度56世帯112人と年々増加傾向にあります。この増加傾向の要因は、町内企業への研修生であり、国籍につきましては、主なものとしてベトナム34人、フィリピン28人、中国18人、ブラジル11人、韓国8人などとなっています。

議員が言わされました「地域住民とのトラブルを見聞きする機会が増えたように感じる」とことについてましては、各方面に確認したところ、町内の外国人移住者のトラブルや外国人本人やその家族、企業などからの困りごと相談等の報告はありませんでした。

和知地区では、4月22日を開催されました協働のまちづくり事業「まちづくりの会・春のフリーマーケット」において、和知にお住まいのベトナムからの企業研修生の皆さんとのダンスがフリー・マーケットを盛り上げて

くれました。

研修生の皆さんも地域社会の構成員としての自覚を持って、まちづくりの会の皆さんとの交流も果たされています。

今後も日本経済は人手不足を補うためにアジア地域に求めていくことが考えられ、当町でもさらに外国人移住者が増えていることが予想されます。

当町といたしましては、そのような変化などに注視しながら、議員ご指摘の異文化の相互理解や多文化共生に資する活動・啓発の必要性については、第5次総合計画で国際化への対応と交流活動の推進に掲げていますよう、現在活動されている八百津町異文化交流サークルなどの町民の皆さんのが主体的に国際化を進めていくよう、国際交流の推進とともに多文化共生を支援してまいりたいと考えております。



和知地区 春のフリーマーケットの様子



加子母総合事務所 (6/18)

視察報告

6月18日、中津川市加子母総合事務所を訪問し、加子母地域広報（放送）システムについて

の視察を行いました。

「NPO法人かしもむら」が事業主体となり運営を行っているもので、地域広報（放送）と生活支援機能が一緒になったシステムについての説明を受けました。

デジタル受信機を使用した音声放送や防災緊急放送、テレビに接続した文字放送や過去の放送などを聞くことができる機能などが備わっていました。

今後、自宅の受信機から加子母内の店で買い物ができるなど、買物・生活支援システムの導入を予定しているとのことでした。

高齢者の安否確認にも使用でき、さまざまな情報を共有することできることで地域の共生を育むことができるのでないかと感じました。



かしもデジタル受信機

可茂地域市町村議会議長会

5月18日、第39回可茂地域市町村議会議長会議がシティホテル美濃加茂で開催されました。

これは可茂地域（2市7町1村）の議会議長が集まり、協同して地域の交流発展に寄与することを目的として毎年開催されているものです。



郡消防操法大会での福地班 (6/24)

加茂郡消防操法大会

6月24日、第62回加茂郡消防操法大会が坂祝町総合運動場で開催されました。

八百津町からは、第5分団福地班が小型動力ポンプの部に出場し、入賞は果たせませんでしたが、町消防団員や議会議員の皆さんからは、温かい拍手や声援が送られていました。



この日は、平成29年度会務報告、平成29年度歳入歳出決算、平成30年度歳入歳出予算案、次期役員及び開催地の決定などを協議しました。

会議終了後、「リバーポートパーク美濃加茂」の現地視察があり、かわまちづくり事業として整備された中之島公園整備事業についての説明や現地施設の見学が行われました。

福地いろどりむら開村式典



郡消防操法大会での福地班 (6/24)



5月20日、福地いろどりの家周辺で福地「いろどりむら」開村式典がありました。むらおさの佐々木さんから、開村にいたまでの経過報告と今後の展望についての話や一五一会サークルによる演奏会、記念植樹等が行われました。

議会改革アンケート調査へのお礼について

町民の皆様にわかりやすく開かれた議会を目指し、今後の議会改革に活用することを目的に、平成30年4月から6月にかけて、自治会・保育園・小中学校を通じ、アンケート調査票を配布、回収させていただきました。

この調査にご協力をいただいた方々には、貴重なご意見等をいただき大変ありがとうございます。また、調査票の記入提出に際して、お忙しいところ自治会等皆様にご理解ご協力をいただき、重ねて感謝申し上げます。

今後、調査結果につきましては、公表させていただきます。

八百津町議会議長 館林 久宜



フォト日誌



アンケートの集計作業の様子



青少年を育てる会（6/10）



加茂郡体育大会結団式（6/3）



福地いのどりむら記念植樹（5/20）

町民の
みなさん

八百津町議会を傍聴してみませんか!!

9月定例会は **9月18日(火)** 開会の予定です

詳細は議会事務局までお問い合わせください ☎ 43-2111(内線2302)

一般質問の様子はCCNet(地デジ12ch)で生中継・録画放送されます

